

日々の祈り

2021年5月31日(月)~6月5日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・兄弟姉妹とその家族、愛する人々の健康と生活が守られ、信仰の歩みが導かれるように。
- ・世界の苦しみ、悩み、迫害、貧しさの中にある人々のために。
- ・九州連合長老会のそれぞれの教会の歩みを覚えて。

31日(月)

ルカによる福音書 13章 34節

エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。父なる神さまは、わたしたちをご自分の恵みのご支配の下に集めようとしておられます。御子イエスさまはそのために、あらゆることをして下さいました。神の子の身分を捨ててまことの人となり、苦しみを受け、十字架に架かり、死ぬことさえ引き受けて下さったのです。そして、父なる神さまはイエスさまを復活させ、天に上げ、御子を通してすべての者に罪の赦しと永遠の命を得させる、その救いの御業を完成させて下さいました。わたしたちは立ち帰るならば、いつでも神さまの羽の下に安らうことができます。

1日(火)

イザヤ書 56章 8節

追い散らされたイスラエルを集める方／主なる神は言われる／既に集められた者に、更に加えて集めよう、と。

神さまは、造られたすべての者を集めようとしておられます。すべての者が御許に立ち帰り、罪を赦され、神さまの恵みに生きることを望んで下さっています。この御心のゆえに、わたしたちは集められました。そして、わたしたちの隣人も、家族も、友も、更に加えて集めよう、と主なる神さまは言われます。わたしたちもまた、この神さまの御心になるようにと祈り、この神さまの御業のために仕えたいのです。

2日(水)

詩編 22 編 28 節

地の果てまで／すべての人が主を認め、
御もとに立ち帰り／国々の民が御前にひれ伏しますように。

わたしたちの祈りです。すべての人が主を認めますように。主に愛されていること、罪を赦されていること、新しい命へと招かれていること、主が共にいて下さることを知りますように。すべての人が御もとに立ち帰りますように。神さまに心を向けて、悔い改めて、救いの恵みを受け取りますように。国々の民が、イエスさまに結ばれ、聖霊によって一つとなり、主を礼拝しますように。

3日(木)

詩編 40 編 2~4 節

主にのみ、わたしは望みをおいていた。主は耳を傾けて、叫びを聞いてくださった。滅びの穴、泥沼からわたしを引き上げ／わたしの足を岩の上に立たせ／しっかりと歩ませ
わたしの口に新しい歌を／わたしたちの神への賛美を授けてくださった。人はこぞって主を仰ぎ見／主を畏れ敬い、主に依り頼む。

わたしたちは、自分が滅びの穴、泥沼の中にいると感ずることがあります。もがき、あがき、あらゆる手段でそこから抜け出そうとしますが、どれも何の役にも立ちません。ですから、わたしたちはただ主にのみ、望みをおくべきです。どんな泥沼の底からも、たとえ滅びの穴の中からも、引き上げ、立たせ、歩ませ、絶望の叫びを新しい歌へと変えて下さることがお出来になるのは、主なる神さまだけなのです。

4日(金)

詩編 30 編 2~4 節

主よ、あなたをあがめます。あなたは敵を喜ばせることなく／わたしを引き上げてくださいました。わたしの神、主よ、叫び求めるわたしを／あなたは癒してくださいました。主よ、あなたはわたしの魂を陰府から引き上げ／墓穴に下ることを免れさせ／わたしに命を得させてくださいました。

次の主日礼拝の御言葉です。神さまは、わたしたちを罪と苦しみと滅びの死の底から引き上げて下さるお方です。そのためにイエスさまは、わたしたちと同じ人間となり、罪を背負い、苦しみを受け、死なれ、底の底にまで降られました。だから、わたしたちは陰府の底にあっても共にいて下さるイエスさまを見出します。そして、父なる神さまは、このイエスさまを死者の中から復活させ、天に上げられました。だから、わたしたちもまた、イエスさまにあって復活の命に与り、天へと引き上げられるのです。

5日(土)

ルカによる福音書 14 章 5 節

そして、言われた。「あなたたちの中に、自分の息子が牛が井戸に落ちたら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか。」

明日の主日礼拝の御言葉です。安息日は、神さまの救いの御業を覚えて礼拝をする日です。律法では仕事をすることが禁じられていましたが、イエスさまは安息日に患っている人を癒されました。安息日は、仕事をしないことが目的なのではなく、あらゆることの手を休めて神さまに向かい、わたしたちが神さまの愛と憐れみの中に生かされることこそが目的だからです。イエスさまは、その神さまの御心を示して下さいました。 聖句:日本聖書協会『聖書 新共同訳』